

# 帝京大学女性医師・研究者 支援センターNEWS

Teikyo University Support Center for Women Physicians and Researchers

vol. 10

Jan.2018

## Advancing Women in Public Health and Medicine Symposium in Harvard を開催

2017年9月15日、ハーバード大学(ボストン)において Advancing Women in Public Health and Medicine Symposium が開催され、女性医師・研究者支援センター長の沖永寛子先生、前室長の野村恭子先生(秋田大学医学部公衆衛生学講座教授)、井上まり子先生(帝京大学公衆衛生学研究科准教授)が講演を行いました。沖永先生は基調講演として「Promotion of Diversity Management at Teikyo University」と題し、日本の男女共同参画の現状と本学女性支援の取組および今後の展望などをご紹介されました。その後のセッションでは井上先生が公衆衛生分野から、野村先生が医療界(医師)をテーマに、それぞれの分野における女性エンパワーメントについて講演を行いました。立見聴講者も出るなど非常に盛況となった会場では、女性医師・教員・研究者としてのロールモデルでもある講師陣のお話のメモを取ったり、ときには驚きの表情を浮かべたりしながら聞き入る参加者の熱心な姿が見られました。

本学では1993年よりハーバード大学と学生・教員の交流、国際共同シンポジウム開催などを通じた学術提携「帝京-ハーバードプログラム」を実施しており、その一環として企画された当シンポジウムでは、沖永佳史学長、矢野榮二教授(公衆衛生学研究科)、ハーバード大学公衆衛生大学院からメレディス・ロゼンタール上級副学長、イチロー・カワチ教授、エリカ・ワーナー氏、UCLAから津川友介氏らが登壇し、女性の活躍について多角的に検討・議論がなされる充実した時間となりました。帝京大学女性医師・研究者支援センターはこうした国際的な場を含め幅広く情報を発信し続けることで、女性活躍エンパワーメント機運の向上に寄与してまいります。



## Advancing Women in Public Health & Medicine Symposium in Harvard

sep.15 2017 Joseph B. Martin conference center Boston

### Welcome & Opening Remarks

#### Dr. Ichiro Kawachi

John L.Loeb and Frances Lehman Loeb Professor of social Epidemiology  
Chair, Department of Social & Behavioral Sciences, Harvard Chan School

#### Dr. Yoshihito Okinaga

President, Teikyo University

#### Dr.Eiji Yano

Professor, Graduate School of Public Health, Teikyo University

### Keynote address :

#### Promotion of Diversity Management at Teikyo university

#### Dr.Hiroko Okinaga

Vice president, Teikyo University

### Panel 1 Enhancing Diversity

#### Dr. Meredith Rosenthal

Professor of Health Economics and Policy and Senior Associate  
Dean for Academic Affairs, Harvard Chan School

### Advancing Women in Public Health: The Japanese Experience

Associate Professor, Graduate School of Public Health, Teikyo University

#### Dr. Mariko Inoue

### Panel2

#### Balancing Work and Gender Responsibilities: Challenges Japanese Women Physicians Face

#### Dr. Kyoko Nomura

Professor, Aikta Graduate School of Medicine

### Intra-organizational Coauthor Networks and Career Advancement in Academic Medicine

#### Dr. Erica T. Warner

Assistant Professor of Medicine  
Harvard Medical School and Massachusetts General Hospital

### Do Female Physicians Result Better Patient Outcomes?

#### Dr. Yusuke Tsugawa

University of California, Los Angeles

ADVANCING WOMEN  
IN PUBLIC HEALTH &  
MEDICINE SYMPOSIUM  
SEPTEMBER 15, 2017 JOSEPH B. MARTIN CONFERENCE CENTER BOSTON MA

Join us for this one-day symposium on  
September 15, 2017  
10:00am - 11:00am  
to hear an international faculty  
discuss strategies to build  
leadership among women in  
public health and medicine.

CONNECT REGISTER

@WomenEquityDay  
WomenEquityDay

QR code: <https://www.women-equity.org/day>

# 活動報告

## Women's Career Cafe (宇都宮)

**宇** 都宮キャンパス所属女性教員企画「Women's Career Cafe」が10月28日にホンダテクノフォート女性技術者をお招きして行われ、学生・教員など8名が参加。テーマに沿い意見を出し合うワールドカフェ形式で行われ、「女性が働きながら輝くために何が必要?」「輝き続けるために何ができる?」という問いに「自分は輝いているのか?」と自問したり、それぞれが思い描く「輝いている人」像や周囲の理解についてなどさまざまな対話が展開されました。後半のコーヒータイムでは学生が女性技術者に「仕事の進め方」について質問したり、大学院進学やその後の進路選択について助言を求めたりと将来を真剣に考える姿が印象的でした。次回開催は2018年2月3日を予定しています。



## 日本細菌学会関東支部総会男女共同参画シンポジウム (板橋)

**9**月29日開催の日本細菌学会関東支部総会で、金子希代子室長が座長を務める男女共同参画シンポジウム「女性研究者とその支援体制」が行われ、金子室長からは日本学術界における男女共同参画の現状と本学女性研究者支援取組成果と展望について、日本大学薬学部女性支援室委員長の村山琮明先生からはご自身のこれまでのキャリアや今後の展望などを報告されました。参加者には男性の姿も多く、育児や介護に関する制度についての質問が男性からも出るなど、男女問わずどのライフステージであっても個々の事情に対応しながら長く研究を継続できる環境の実現こそ、めざすべき「男女共同参画社会」であるという印象を残すシンポジウムとなりました。



## ジャーナルクラブ

**木**曜日の夕方は、女性医師・研究者支援センターが若手研究者・学生の熱気にあふれる日です。これまで野村恭子先生が担当していたジャーナルクラブが、公衆衛生学研究科教授の矢野榮二先生、講師の桑原恵介先生に引き継がれ新たにスタートしました。海外の一流雑誌に掲載されたアートの読み方を学ぶだけでなく、研究手法や統計数値の考え方を学べる機会とあって、学部生・大学院生・若手研究者と、さまざまなバックグラウンドをもつ若者たちが集まり真剣な表情で聞き入り、ときには熱く議論を交わしています。スキルだけでなく、この場を通じて得られるネットワークも若手研究者には得難い財産になることでしょう。



## 医療技術学部 FD (Faculty Development) において男女共同参画講演

**本**学男女共同参画推進における重点課題の一つである「組織の意識改革」に向け、FD(ファカルティ・デベロップメント)に男女共同参画テーマを取り上げる方針が沖永佳史学長より提言発信されたことを受け医療技術学部では臨床検査学科講師の関玲子先生が大学として女性研究者支援を進める背景や取組成果についてご自身の経験談をまじえて講演されました。少子高齢化による人口減少と寿命の延伸という大きな社会構造の変化を迎える日本では、さまざまな背景をもつ多様な人材が集うことで新たな視点生まれ、それが大学の強みとなっていくことや、本学教育指針の「国際性」「開放性」につながるなどが力強いメッセージとして届けられました。



### お知らせ：平成29年学内ニーズ調査ご協力をお願い

毎年恒例の学内ニーズ調査「育児・介護と職場環境に関するアンケート調査」を2月にWEBアンケート形式にて実施いたします。詳細については所属学部・講座・部署よりメールなどでご案内する予定です。ご協力をお願いいたします。

### 編集後記

早いもので当センターが活動を開始して5年目になりました。女性も男性もいきいきと過ごせる大学をめざし、制度を立ち上げセミナーの企画など行ってきました。多くの方からお叱りも応援もいただきました。学内外を問わず多くの先生方、職員の方と出会い、交流できたことが一番の“宝物”だと思っています。皆様いただいた“宝物”を糧に、さらに身近で手元に届く支援に努めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。(H)

編集・発行

帝京大学 女性医師・研究者支援センター

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 病院棟 6F  
TEL：03-3964-8456 FAX：03-3964-8457  
Mail：women@med.teikyo-u.ac.jp

